

家庭菜園

Q & A

問題解決!



南部宮農センター
園芸課
検校 哲也

Q1 イチジクの株元に小さな穴があいています。テッポウムシと聞きました。が、どんな虫で、防ぐにはどうしたらいいでしょう。

A1 カミキリムシの幼虫をテッポウムシと呼んでいます。鉄砲で撃ち抜かれたような穴をあけることから名前がついたみたいです。イチジクではキボシカミキリ(写真1)やクワカミキリが発生し、幼虫が木の中を食い荒らします。



産卵時期は6月〜7月、木の皮の下に卵を産みつけます。1週間ほどで孵化し、木の中を食べて大きくなります。木に木くずが付いていれば穴があいていて中に幼虫がいます(写真2)。



成虫の被害はまずありませんが、木の中を食い荒らす幼虫は放って置けません。株元をやらせて最悪は枯れることもありますので、穴の中の虫を退治しましょう。被害を受けやすい株元を

察して、木くずがないか見回ります。木くずが出ていれば、中に幼虫がいます。穴を探して、虫を駆除します。

殺虫剤を使いますが、普通に噴霧しただけでは、穴の奥まで農薬が入って行きません。専用のエアゾールタイプの殺虫剤(園芸用キンチョールE)を使います。穴の奥へ注入しやすいようにノズルが付いていますので薬液が幼虫にかけやすくなっています(図1)。成虫そのものは殺虫剤で

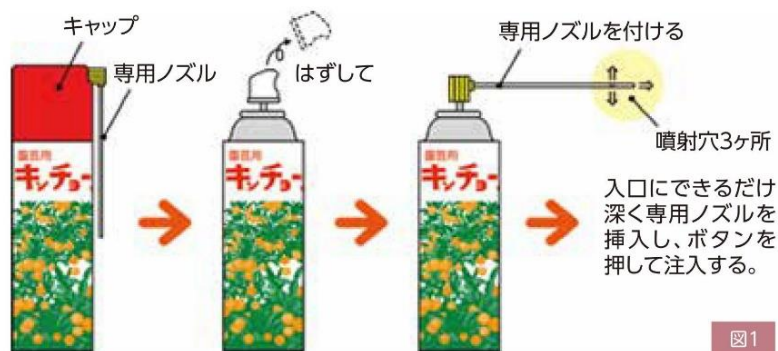


図1

は防除が難しいので見つけしだい手で捕殺します。

また、成虫は樹皮の下に産卵しますので、それを防ぐための塗布する薬剤(ガットサイドS)もあります。5月〜7月に株元から主枝まで刷毛で塗ってゆきます。これで産卵を防ぎます。

テッポウムシは、いろんな種類がいて、ミカンなど柑橘類やブドウ、花ではバラなど、庭にある樹木全般に穴をあけます。

専用ノズルの付いたキンチョールEが1本あると便利です。愛菜耕房、菜々耕房でお求めください。

Q2 ベランダや軒下で育てている植物の暑さ対策は?

A2 直射日光とコンクリートの照り返しで過酷な環境になるベランダなど、ひと工夫して植物を夏バテから救ってあげましょう。

まず、直に鉢を置かず、鉢に足をかませて、床からの熱が直接伝わらないようにします。園芸店にはポットフイット(定台)やレンガが売っています。熱を伝えず、通気性、排水性もアップします。さらに、土

の表面をバークやウッドチップなどで覆うマルチングが有効です。直射日光が当たらず、乾燥を防ぎ、土の飛散も減ります。

なによりも大切なのは、水やり。土の表面が乾いたら鉢底から流れ出るまでたっぷり水をやりま。気温の低い早朝が最適で、乾いていたら夕方にも水やりします。

油断禁物なのが、台風です。ゲリラ豪雨も風をとまなったりします。部屋に取り込めるなら万全です。そして、私たち自身も熱中症に気を付けましょう。



オンライン
農業塾は
こちら

動画はコチラ



管内の
病害虫
情報は
こちら



家庭菜園
情報は
こちら

